HAKUJYUJIKAI

4

Annual Report **2016**

委員会

委員会組織図

活動報告

病院機能向上推進室会議

倫理委員会

医療安全管理対策委員会

栄養管理委員会

薬事委員会

クリニカルパス委員会

広報委員会

※2016年度は抜粋して、7委員会を掲載しております。

委員会組織図

2017年3月31日現在

- 病院長
  - 副院長
    - 診療部
    - 看護部
    - 薬剤部
    - 放射線技術部
    - 臨床検査技術部
    - 臨床工学部
    - リハビリテーション部
    - 栄養管理部
    - 医療安全管理部
    - 感染制御部
    - 事務部
    - 健康管理部
    - 地域医療連携センター
    - 臨床研究管理部
    - 診療協議会
      - 拡大診療協議会
      - 病院機能向上推進室会議
      - 倫理委員会
      - 診療録等開示委員会
      - 治験審査委員会
      - 研修管理委員会
      - 医療安全管理対策委員会
      - 院内感染対策委員会
      - 栄養管理委員会
      - 輸血療法委員会
      - 臨床検査精度管理委員会
      - 栄養給食委員会
      - 医療廃棄物処理委員会
      - 医療ガス安全管理委員会
      - 放射線障害防止専門委員会
      - 防火管理委員会
      - 労働安全衛生委員会
      - 病床運営委員会
      - 救急部運営委員会
      - 手術室運営委員会
      - ICU運営委員会
      - 薬事委員会
      - クリニカルパス委員会
      - 医療情報管理委員会
      - 診療録監査委員会
      - 保険診療検討委員会
      - 物品管理委員会
      - 広報委員会
      - 図書委員会
      - 個人情報保護運営会議
      - がん化学療法レジメン審査委員会
      - 地域医療支援病院運営委員会
      - 省エネルギー推進委員会
      - 医療機器安全管理委員会
      - 健診委員会
      - 医薬品安全管理委員会
      - DPC委員会
      - 提案委員会

病院機能向上推進室会議

目的

医療サービスの質向上および職場環境の向上に関して、病院職員が組織横断的かつ主体的に取り組み、患者さんおよび職員の満足度を向上することを目的として活動しています。

活動状況

①外来満足度調査の分析に、各項目の全体満足度への影響度を取り入れ、新たな問題点の抽出を行いました。②各検討課題について新規活動検討、事案フィードバック、広報の3チームに分かれ、内容を検討し、討議しました。③接遇ワーキンググループにて職員の接遇向上のための研修会を部署ごとに行いました。ナイスですカードの活用、広報や、接遇優秀者の表彰も行いました。④「母の日」「父の日」に職員のお子さんから似顔絵を募集し、院内に展示しました。⑤患者さん向けの各種ご案内リーフレットを作成しています。⑥機能向上通信を職員向けに発行し、活動内容を周知しています。

重点目標・評価と来年度への展開

2016年度は、「外来満足度調査」で例年満足度の高く、病院全体の満足度への影響力がある「接遇」の項目についてさらなる教育や評価の充実を図りました。2017年度は、患者さんや職員からいただいた要望に対して一つ一つ改善を行い、質の向上に努めてまいります。

倫理委員会

目的

職員などが行う医学系研究において、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って、かつ、「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」などの関連指針に準拠し、然るべき倫理的配慮および科学的妥当性が確保されているかどうかを審査または判断して承認する、あるいは、医療現場の倫理的問題（倫理的な判断を要する案件など）の解決に必要な事項を定めることを目的としています。

佐世保中央病院倫理委員会は、研究倫理および臨床倫理に関する委員会の適正をはかる目的で、医学臨床研究のプロトコール（研究計画書）の審査等を行う研究倫理委員会、医療機関内で生じた特に臨床に関する問題を全般的に扱う臨床倫理委員会、以上の2つに2016年2月1日付で機能分化（体制の再編）を行いました。

活動状況

委員会の開催・審査の実績（2016 年度）

<table>
<tr><th colspan="2">開催数</th><th rowspan="2">審査研究数</th><th rowspan="3">通常審査における協議事項</th></tr>
<tr><th>通常審査</th><th>迅速検査</th></tr>
<tr><td>6 回</td><td>6 回</td><td rowspan="2">30</td></tr>
<tr><td colspan="2">計 12 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">【研究倫理】
・看護研究の倫理審査について
【臨床倫理】
・硝子体手術における「ILM ブルー ®」の使用
・DNR ガイドラインの見直し
・臨床現場の臨床倫理現状調査</td></tr>
</table>

重点目標・評価と来年度への展開

2016年度は、研究倫理および臨床倫理の機能分化（体制の再編）に関し啓蒙と運用の定着を図りました。

2017年度は、臨床倫理においては改正倫理指針（2017年5月30日施行）に対する準備・啓蒙・スムーズな移行に注力し、臨床倫理においては臨床倫理に関する指針・ガイドラインの整備・啓蒙を行う予定です。

医療安全管理対策委員会

目的

医療安全管理対策委員会（以下「委員会」）は、病院内の医療安全管理対策を総合的に企画・実施するために設置されています。診療部をはじめ各部門の部門責任者から構成されており、以下の任務を担っています。

（1）委員会の開催および運営
（2）医療に係る安全確保を目的とした報告で得られた事例の発生原因・再発防止策の検討および職員への周知
（3）医療安全管理部によって決定された再発防止策の実施状況調査および評価
（4）その他、医療安全の確保に関する事項

活動状況

委員会は、原則として月1回程度定期的に開催し、医療安全管理部をはじめ各部門から報告される事例や国内情報の共有などを行っています。2016年度に委員会で行った主な事例検討は、転倒・チューブトラブル・誤嚥・皮膚トラブル・医療機材関連などです。また、国内事例として、患者誤認・インシュリン関連の誤投薬事例などの共有を行いました。さらに、医療事故調査制度の現況報告も随時行っています。

栄養管理委員会

目的

栄養管理委員会は、栄養サポート・褥瘡対策・摂食嚥下対策（口腔ケア、摂食嚥下）を担い、入院患者の栄養面・身体面の問題点を多職種で検討し、社会・在宅復帰をサポートする事を目的に活動しています。

活動状況

項　目	目標値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 / 達成率
褥瘡発生率%	2.0%	0	0	0	0	0.9	0	0.39	0.77	0.51	0.35	0	0.45	0.28%（平均）
NST 介入件数	550 件	73	69	57	80	80	53	83	60	61	55	60	63	794 件 /103%

重点目標・評価と来年度への展開

（1）NST　①NST介入患者への栄養指導　②栄養情報提供の拡大　③NST算定の継続
（2）褥瘡対策　①病棟ラウンド強化　②院内分散教育　③ラダートピックス研修
（3）口腔ケア　①周術期患者の口腔ケア対応　②職員の口腔ケア技術や知識の向上
　嚥下カンファレンス　①接触機能療法算定の明確化　②カンファレンスの質向上

NSTでは医師3名が新たにNST10時間セミナーを受講、また歯科医師もカンファレンス・回診に加わったことで、多職種によるディスカッションがさらに活発になりました。口腔ケアでは歯科医師による評価や治療が可能となり、院内で口腔ケアの意識が高まり、周術期患者への対応を継続することができました。摂食機能療法に関しては手順が確立し、カンファレンスで活発な意見交換が行われるようになっています。

学会・研修会への参加実績

①日本経腸静脈栄養学会認定　NST専門療法士取得　：看護師1名
②NST医師10時間研修：内科医師3名
③NST専門療法士　更新セミナー：管理栄養士1名
④NST40時間研修　：管理栄養士1名

薬事委員会

目的

医薬品の選定･購入･配布･使用及び廃止等の適正化、および医薬品購入額の削減を図ることを目的としています。

活動状況

■年間開催数　薬事委員会:5回　デッドストックアンケート:1回

■協議事項　①医薬品の新規採用の可否：新規採用　87品目
②既採用医薬品の再評価･廃止：採用削除薬剤　40品目
③後発医薬品への変更の可否：先発品から後発品へ　25品目
：後発品の見直し　16品目

重点目標・評価と来年度への展開

■新規･臨時採用薬は2015年度（65品目）と比較すると増加しています。来年度は採用医薬品数の増加を防ぐために、新規採用時の同種同効薬との比較検討、不動医薬品の採用継続の見直しを重点的に行い、医薬品購入額の削減を目指します。

■後発医薬品の使用推進を目指し、変更品目数は2015年度（10品目）と比較すると増加しました。来年度も後発品使用量率を低下させないよう先発品からの変更を継続して検討します。

クリニカルパス委員会

目的

医療全般を標準化したクリニカルパスを運用し、医療の質の保障と患者さんの安全の確保を目的としています。

活動状況

■院内クリニカルパス大会（2016年11月25日）　参加者:114名

テーマ：「多職種協働で支える慢性心不全患者 ～地域連携パスに向けて～」

第1部：疾患に関する講和

「慢性心不全について」 医師　吉村 聡志

「虚血性疾患について」 医師　落合 朋子

第2部：看護部、リハビリテーション部の取り組みについて

「多職種で支える　慢性心不全の看護」 看護師　舩崎 このみ

「急性心不全症例へのパスの取り組み」 理学療法士　浦　佑亮

■各部署でのクリニカルパスの新規作成･見直し改訂を行っています。

他職種を含めて、3つのワーキンググループに分かれ年間を通して活動しています。

重点目標・評価と来年度への展開

■各部署の委員を中心に、計画的にパスの見直しを行います。

■委員会が多職種で構成されている利点を活かし、多職種で協働してパス作成に取り組みます。

■バリアンス入力漏れを減らし、パスの見直しに活かします。

広報委員会

目的

当院を取り巻くあらゆるステークホルダー（患者さん、患者さんのご家族、地域の医療機関、取引業者など地域の企業、当法人職員、職員家族など）に対し、当院に対する理解を深めていただくことを目的としています。

活動状況

■定例会（毎月第2水曜日開催）

■院外向け広報誌「はばたき」・院内向け職員広報誌「SCRUM」

2016年度はどちらも4回発行しました。「はばたき」は毎号約2,500部を印刷し、地域の企業や医療機関へ配布しました。「SCRUM」は院内イントラに掲載し、法人内関連施設には印刷配布しました。

■2011年より毎年、病院年報・パンフレット作成・更新を行っており、診療実績や病院概要などを発信しています。

■ホームページの更新

年度末に全ページレビューを行い、未更新のページの修正や最新のデータの掲載を行いました。年間約10万件のアクセスをいただきました。

■SNS（Facebook）の活用

イベントの告知や報告はFacebookでも行い、2016年度は45件を投稿し、7万件を超えるアクセスをいただきました。

重点目標・評価と来年度への展開

2016年度はホームページの更新に際し全ページの見直しを行い、最新のデータの掲載に努めました。また、院内広報誌の刷新を行い、好評をいただいております。当院のことをより知ってもらい、より関心を持っていただけるよう、さまざまなツールを活用しタイムリーな情報の発信をしていきます。